



伊藤 好恵「渦と神秘」

右渦
阿波藍染糸・絹



バックスタイル

左渦
蓄光糸・蓄光パールビーズ

「渦と神秘」

— 水からのメッセージ —

伊藤好恵

A Swirl : Its Mysterious Patterns and Designs

— The Messages from Water —

Yoshie ITO

1. 作品の構想

水は、あらゆる生物にとって生存上欠くことができない大切な存在である。気体・液体・固体と3つのかたちを有する水は、水蒸気となって大気に拡散し、水滴となって雲や霧などを生じ、雨や雪となって地表に降り、自然を潤す。またある時は、大気や海洋におこる現象のかたちである「波動」と「渦動」になり、エネルギーを有する。このように水は、すべての生命の根源でもあり、自然や光と融合し、審美的光景を発揮する。

ある時、私が興味を抱いた“水の姿”に魅せられ、キーワードを「水」とした。水のもつさまざまな姿・色彩・エネルギーなどは、それを感受する人により異なり、各人にそのイメージを委ねることにし、タイトルを「水からのメッセージ」とした。

この作品のテーマ「渦と神秘」は、水の「渦動」エネルギーのかたちである「鳴門の渦」をモチーフとしている。拡散する螺旋は「能動性」を表わし、収斂する螺旋は「受動性」を示す。また、時計の方向と同じ「右巻き」はエネルギーの外向を示し、反対方向「左巻き」はエネルギーの内向を示す。人は、心の外向的・内向的エネルギーのバランスで行動している、人間の心の「内面性」と水の美しさを「外面性」として捉え、作品は、この対比共存イメージを『明』と『暗』で異なって見える渦デザインに表現したことを特徴とする。

前身頃は、右渦（時計回り）でエネルギーの外へ向かう力（前進）を表現し、後ろ身頃には、エネルギーの内へ向かう力（後退）をイメージし、色彩を変えた左渦をデザインした。

人の歩む自由曲線は、時には直線的（前進）で、ある時停滞・迂回（後退）を繰り返し螺旋を描く。エネルギーを得た水は、自然光により宝石のように煌めき、目的地へと意志を持つかのよように流動する。まるで、人の歩むさまのように……。

作品は、自らの定まった形や色彩を持たず、卓越したエネルギーを持つ神秘的な「水」を題材とし、糸だけの素材でテキスタイルに感性表現し、製作過程は、服装造形学理論で作図、アパレルCADプロッターで拡大パターンを出力し、出来る限り縫い目をつけずに立体縫製したワンピースドレスである。素材糸は、古代から伝承される藍染で染色した濃淡の藍染糸（人為作業）と現代のハイテク素材であるホワイトの蓄光糸（機械生産）との融合、また、テキスタイル製作と縫製過程が全て同時に進行し、作品が仕上がることも特徴的である。

2. 素材 (1)

・阿波藍染	濃色	手紡ぎ糸	スラブ糸	1.7番手	絹100%	78 g
・阿波藍染		手紡ぎ糸		12 番手	絹100%	3 g
・阿波藍染	中間色	手紡ぎ糸	スラブ糸	1.9番手	絹100%	46 g
・阿波藍染		手紡ぎ糸		10.3番手	絹100%	14 g
・阿波藍染	淡色	手紡ぎ糸	スラブ糸	1.7番手	絹100%	54 g
・阿波藍染		手紡ぎ糸		10.3番手	絹100%	11 g
・阿波藍染	段染め	手紡ぎ糸	スラブ糸	5.7番手	絹100%	75 g
・阿波藍染		手紡ぎ糸		9.7番手	絹100%	10 g

以上8種類は、家蚕で人の手で紡いだ糸を使い、藍の蒔種(まく)・苗床(びょうほ)の間引き、除草・苗床からの採苗・藍の定植・管理・藍刈り・葉(すくも)[藍の葉を発酵させて染料になったもの]の製造7工程を経た藍の染料で染色された阿波藍染め糸を使用した。

藍染の歴史は、紀元前2500年前のエジプトにさかのぼり、日本では、邪馬台国の時代から飛鳥奈良時代にかけて中国より藍染めの技法が導入された。この素材は、江戸時代から続く作業で作られた阿波藍染で、手間隙かけた人の手を介した天然藍で染めた糸であり、それぞれが、紡ぎ方、太さ、色合いの異なる糸である。この丹精こめた手作りの糸を使用できたことは、着心地の良さ、と人の暖かい温もりを表現したかった私にとって幸せな出会いであった。

素材 (2)

・蓄光手紡ぎ糸	(原毛)	ホワイト	ポリエステル100%	4 g
・セラス	エステイエ企画	ストレート	ポリエステル100%	3 g
		ブークレ	ポリエステル100%	3 g
		ループ	ポリエステル100%	3 g
・イシスコットン	東洋紡績	COL.NO.IS292	綿100%	15g
・シルクローダー	ダイヤ毛糸	COL.NO.LD419	綿59% 絹41%	27g
・シルクソワレ	ダイヤ毛糸	KS323	アクリル53% レーヨン27% 絹20%	6 g
・ベルフォセット	カネボウ毛糸	COL.NO.708	アクリル75% レーヨン3%	
			ナイロン21% ポリエステル1%	40g
・シンフォニーマジック	カネボウ毛糸	COL.NO.310	レーヨン68% ポリエステル32%	38g
・エミール	カネボウ毛糸	COL.NO.355	アクリル55% ナイロン45%	33 g
・ファーライク	カネボウ毛糸	COL.NO.1	ポリエステル100%	5 g
		COL.NO.13	ポリエステル100%	4 g
・シャギー	ダイヤ毛糸	COL.NO.1	レーヨン57% ポリエステル34%	
			ナイロン9%	2 g
・メタリックヤーン	KYOWA	NO.113266		2 g

以上14種類の糸は、最新の糸でハイテク素材（蓄光糸）等を含む。これらを混合することにより、水の神秘的色彩表現と明暗のテキスタイルが異なって見えるよう意図したものである。

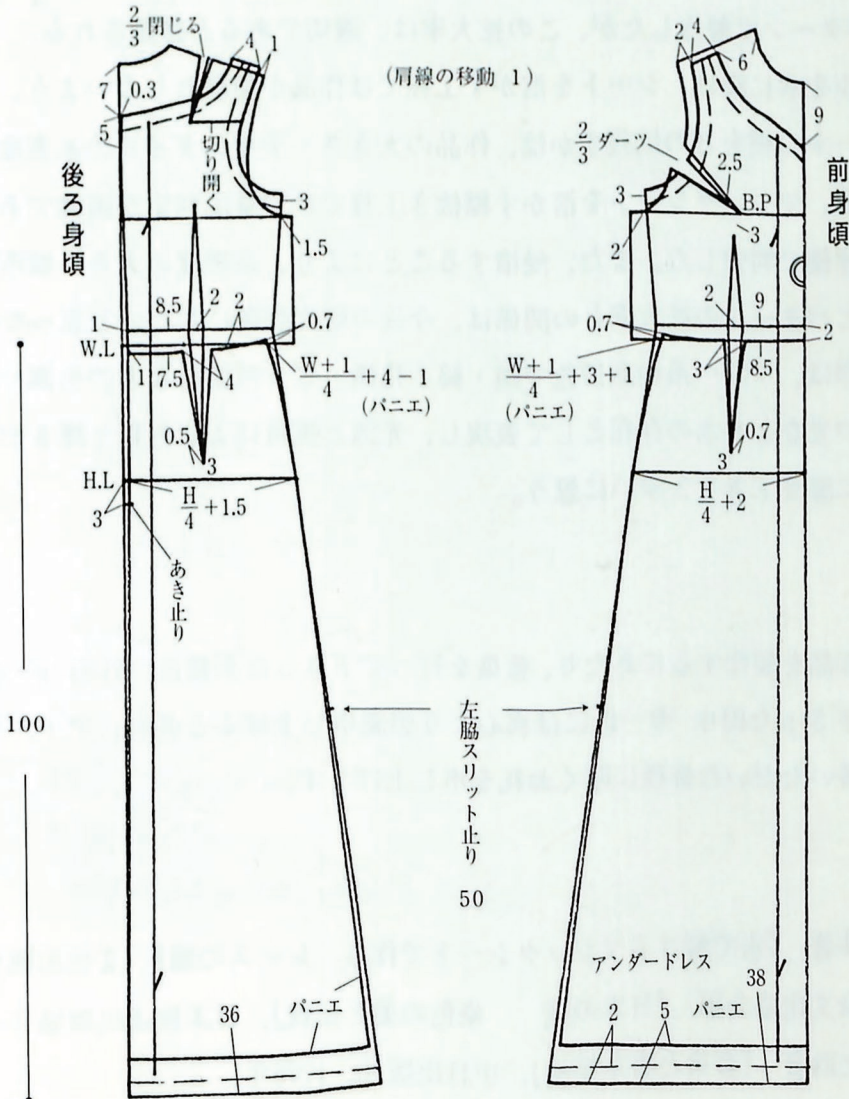
「暗」のテキスタイルは、明るい光を吸収して「暗闇」で発光する線の連なりが弱々しくも不思議な明かりを放つ。

素材（3）

- ・マジックシート(水溶性フィルム) 厚手101cm幅 6.2m 生地作り用シート
- ・ジーナデシン ポリエステル100% 113cm幅 2.85m トワル用(渦を描く)
- ・シルクデシン シルク 100%(肌色)90cm幅 5.7m アンダードレス(衿仕立て)
- ・ヴェネチアビーズ AMV 6 mm S箔 マリーノ 70個 ネックライン
ミニチューブ S箔 アクアマリン 75個 脇スリット
- ・パールビーズ 発光色(緑) 4 mm 前身頃 1600個 後ろ身頃 1010個 ネックライン 70個 スリット 275個 計2955個
6 mm 前身頃 300個 後ろ身頃 100個 スリット 15個 計 415個
8 mm スリット 6個 計 6個

3. デザイン 「渦」のデザインが映えるようにAラインの形態とした。

4. 作図 アパレルCAD 縮小率8%



5. 考 察

この作品は、糸でテキスタイルを製作し、ダーツなどの縫い目線をつけず立体にしたワンピースドレスで、手紡ぎ（糸作り）・染色・テキスタイル製作（糸のみ使用）・縫製に至るまで全工程が手作りであることを特徴とする。テキスタイル製作には、テーマの感性を表現するため配糸を考慮して行うが、ミシン工程での収縮とマジックシートを溶かす工程で型崩れを起こしてしまう。テキスタイルとして現れるこの段階で、意図したデザインの必然性を高めるためには、横より縦に糸を配することが有効で、螺旋が最も保形性に優れる結果が出た。

水に浸すことと糸を重ねて置いていく過程を経ることにより、テキスタイルの風合い色合い等が偶然と必然との融合作品になる。そのため、渦デザインの必然性を高めるための工夫としてはトワルにデザインを描くことと使用する素材糸でテキスタイルのサンプルを作り、作品を創造する一助とした。結果としてこの方法は、渦の位置、大きさには有効であったが、平面上で配糸を行うため人台に当てた立面上でのバランスが異なり、若干の修正を行うことにした。

ミシンかけの角度は、配糸に対して直角にける方法と水平垂直の正方形・長方形にける方法が糸の型崩れを防ぐために有効的な方法であると考えられる。

テキスタイルのミシン工程での収縮率は、縦横5%と設定し、アパレルCADプロッターで105%出力のパターンで製作したが、この拡大率は、適切であると推測される。

テキスタイルを水に浸け、シートを溶かす工程では作品が型崩れしないよう、注意を払いながら行うが、シートの糊をどの位残すかは、作品の大きさ・テキスタイルの糸密度・水の量などにより異なるため、マジックシートを溶かす糊抜き工程では定量的判定が困難であり、手の触感覚による客観的評価で判定した。また、浸漬することにより、糸密度の大きい個所は若干の収縮があり、糸密度とパターンの拡大率との関係は、今後の研究課題にしたいと思っている。

ドレスの色彩は、ブルー系の糸17色で絹・綿・化繊・ビーズ素材などの色調や光沢、ホワイト糸が暗闇で放つ光などを水の存在として表現し、光源と視角による色彩と輝きが微妙に異なる作品をさまざまに感受下すると幸いに思う。

6. 謝 辞

今回の研究作品を製作するにあたり、藍染を行って下さった刃藍正の外山 正氏、糸を紡ぎ草木染めを行って下さった田中 秀一氏には衷心より感謝申し上げますと共に、アドバイスをいただいた先生、ご支援いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

参考文献

- (1) 波間幸井著 『水で解けるマジックシートで作る レースの服』, 文化出版局, 1996年.
- (2) 日本藍染文化協会編 『日本の藍 染色の美と伝統』, 日本放送出版協会, 1994年.
- (3) 堀江勤之助著 『藍染と唐草模様』, 中日出版社, 1978年.

- (4) ジョン・ギロウ／ブライアン・センテンス著 『世界織物文化図鑑』, 東洋書林, 2001年.
- (5) 資料 『阿波藍作り (蒨種からすくもづくりまで)』, 阿波藍製造技術保存会, 1989年.
- (6) 水之江有一編 『シンボル辞典』, 北星堂書店, 1996年.
- (7) 日本大辞典刊行会編集 『日本国語大辞典第18巻』, 小学館, 1975年.

いとう よしえ 本学教授